



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'98 2月号

古代遺跡を探す会 縄文人のくらしを再現

縄文土器を作り、調理実験する

毎月1回、「古代遺跡を探す会」は市内の遺跡分布調査を通じて、考古学に親しみながら、「考古学の世界」を体験する会で、平成4年に発足し、早6年経過しました。雨の時は館内で考古学の基礎を勉強し、和気アイアイの中で楽しみながら会を重ねています。

会員の興味も様々に広がる中で、“実際に縄文土器を作りたい”という希望が大きく膨らみ、実行班（代表：森島さん）から是非実験したいとの旨がありました。担当者としては会の性格から逸脱するものではなく、逆にこの会の本質を探るものと考え、昨年の秋に実行しました。

- ・9月27・28日：土器の形を作る
- ・10月19日：土器で調理実験を行う

- ・10月12日：土器を焼く
- ・参加人数：15名

煮沸実験に使った土器



制作した土器は、平塚市内の遺跡から出土した縄文土器を、そのままコピーしました。大きさ・形・文様を見ながらの制作には大変苦勞があったようです。野焼きの時、焼成温度が最高1000度に達した時は悲鳴を上げるほど熱くて近寄せませんでした。土器を使っでの調理実験には会員が素材を持ち寄って行いましたが、結果は上々。特にすいとん風のドングリ団子の味は言葉にならない奇妙な味がしました。

今回の制作実験を通して、土器が単なる土器ではなく、作る技術的な知識から土器を制作した縄文人の社会構造はどうなっていたのだろうか、と様々な思いが巡ったと思います。この思いを大切に、会の活動に生かして頂きたいと思います。



実物を前に置き、土器の製作



野焼き・最高温度は1000度に達する



米の粉を入れて、土器の内面を臼づまりさせる実験



土器でドングリ団子・アサリなどを煮る

海

博物館は2月より2階展示室の展示替え工事をおこなっています。
5月には2階の展示室が11年ぶりに一新されます。
展示は、海、大地、村、都市という4つのサブテーマで構成されます。

しょっぱなに登場する「海」は、平塚の漁業を扱う「相模湾に生きる」、漂着物や川と海とのつながりを紹介する「浜で拾う海の自然」・「川から海へ」の3コーナーから構成されます。自然人文の両面から平塚の海を考えていきます。

相模湾に生きる

ここでは、「相模湾に生きる」の内容を紹介しましょう。平塚市博物館の展示物で一番大きなモノはさて何でしょう？1階の移築民家に次いで大きいのが、木造地曳船です。展示替えの度に転々と場所は移動しましたが、開館以来居座り続ける博物館の顔でもあります。木造船が次々に現役を退いていくなか、博物館に隠居している地曳船の資料価値は年ごとに増していくことでしょう。新しい展示室では、階段を上がったら正面にすぐ地曳船のミヨシが目に入るはずです。

このコーナーの新たな目玉は、地曳船の背後に掲げられた大きな絵です。絵といっても実際展示するのは、接写して大きく引き伸ばした写真パネルになります。絵は4葉続きで、1、船で網を張る場面、2、浜で網を引く場面、3、水揚げの場面、4、タタミワシ製造工程の場面が描かれています。

描かれた年代は、少なくとも明治16年以前であるこ

とは確かです。というのは、この絵は明治16年の水産博覧会に出品されたものだからです。出品目録によると「相模国大住郡平塚新宿」より出品された『シラス干製造場図式』となっています。今から115年以上前の平塚の地曳網漁とタタミワシ製造の様子が描かれているわけです。

絵には、このあたりの特徴であるミヨシが高くせり上がった船や、ヒキコが腰に腰縄を通して綱を引く様子などが描かれており、船が機械化されウインチで綱を引くようになるまでの地曳網の状況は、明治初期の頃とさほど変わっていないことが分かります。

また、絵には「シラス干し製造」と記されていますが、描かれている内容は、平塚名産タタミワシ作りの様子です。タタミワシは戦前まではカクボシといわれ、セグロイワシの稚魚であるシラスを天日干しして作ります。絵には、地曳き網で捕ったシラスを籠に入れ、天秤に提げて運ぶ漁師や、枠に入れた生シラスをイグサで編んだスタレに押し当てて天日干ししている様子などが描かれています。

この他、地曳網の網と網模型、アンバリ・ケタなど網を繕う道具、カツオー本釣りの針と疑似餌、プリ大謀網の模型、大漁旗やマイワイなどが展示されます。お楽しみに。



タタミワシ製造図（国立国文学資料館史料館所蔵）

大地

大地のコーナーでは相模川流域の大地や相模湾について、その成り立ちや環境、大地を作る岩石や地形などを紹介します。

大地の生い立ち

相模川流域の源流をなす丹沢山地や小仏山地は、現在とはかけ離れた場所で地層が形成され、フィリピン海プレートに乗って運ばれ本州弧に衝突して付加され、山地となったものです。相模川は丹沢山地が関東山地に衝突したことによって誕生しました。箱根や富士の火山活動もこうしたプレート運動と密接に関わっています。このコーナーでは、こうした相模川流域の1億年に亘る大地の歴史について、かつての日本列島の様子を交えて、写真や実物資料からその成り立ちを紹介します。身じかな自然の中にも大地の生い立ちを知る証拠が数多く残されているのです。

大地の壁と題するコーナーには、流域の大地を作る様々な岩石や化石を展示します。それぞれの資料はかつての海や大地の様子をいろいろ語りかけてくれます。

また、市内万田の地層を表面だけはぎ取り、大地を作る地層の実物を展示します。地層を作る粒子の様子や、砂粒を運んだ水の流れの様子からかつて平塚が海であった頃を想像してみてください。

深海のシロウリガイ

相模湾には駿河湾、富山湾と並んで1000m以上の水深を持つ海底谷が発達しています。この海底谷は相模トラフと呼ばれます。ここは南から動いてくるフィリピン海プレートが現在衝突し沈み込んでいる場所で、変動が極めて激しいところであり、過去の大地の変動の歴史をひも解く鍵を握っています。このコーナーでは、相模湾の深海の地形の様子や、独特の生態系をもつシロウリガイを代表とする深海生物群集などについて紹介します。水深1000m以深の深海に生息するシロウリガイ化石は何を物語るのでしょうか。シロウリガイ化石は防衛施設庁からご寄贈いただき、海底の写真は海洋科学技術センターのご協力をいただきました。

岩石と地形

過去1億年の歴史を持つ相模川流域の大地は、様々な岩石からできています。流域の地形は丹沢や伊豆が本州に衝突し、丹沢が急激に隆起してから作られました。富士や箱根は最も新しい時期に形成されました。このコーナーでは、流域のどんなところにどんな岩石が分布し、どんな地形が見られるかを、地質図とそのまわりに写真を36枚配置し、その岩石の実物資料と合わせて紹介します。



はぎ取り標本をとる露頭（小向断層露頭）



シロウリ貝化石

博物館カレンダー

2月の行事予定

1	日		民俗探訪会	(下吉沢)
8	日		地質調査会	
12	木		石仏を調べる会	(館内)
14	土	○	こども観察会	(花水川)
15	日		相模川の生い立ちを探る会 古代遺跡を探す会	(広沢寺)
21	土		天体観察会「カノーブス」	(海岸)
26	木		石仏を調べる会	

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

3月の行事予定

1	日		民俗探訪会	(上吉沢)
8	日		地質調査会	(館外)
12	木		石仏を調べる会	
14	土	◎	漂着物を拾う会 天体観察会「まとめ」	(海岸) (館内)
15	日		相模川の生い立ちを探る会 古代遺跡を探す会	(上野原)
26	木		石仏を調べる会	

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

■休館のお知らせ

二階展示室の展示替えに伴い、休館中です。

期間：2月2日（月）～4月30日（木）

なお、博物館にご用のある方は電話で、または1階事務室までお越し下さい。

●こども観察会

「水鳥の観察」

期日：2月14日（土）

時間：午後1時～4時

場所：花水川

申込：2月5日までに往復ハガキで。

(小中学生およびその保護者に限る)

申込多数の場合は抽選とします。

●漂着物を拾う会

期日：3月14日（土）

時間：午前9時30分～11時

場所：花水川平塚側河口

参加自由

あなたと博物館 22巻 11号 通巻252号 発行 平塚市博物館 2000

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949